

# 東北地方太平洋沖地震被災地支援活動の記録

派遣職員 榛葉博光

所属 社会教育課

## 1 派遣期間

平成23年 8月25日(木) ~ 平成23年 9月 3日(土)

## 2 派遣先及び主な活動場所

岩手県山田町役場

## 3 支援活動の内容及び活動の状況

山田町災害対策本部へ配属

- ・庁舎屋上から定点での写真撮影を毎日実施し街の変化を記録
- ・災害対策本部会議、庁内会議、復興に関する会議や、災害発生時の対応に対する事後評価の会議等、様々な会議の議事録を作成
- ・報道機関及び避難所への提供資料作成(週3回発行)
- ・様々な現場で活動している状況の写真撮影及び整理
- ・仮設住宅入居者へ衣類等配送
- ・避難所閉鎖に伴い、避難所に残った物資・機材等の撤収作業

## 4 活動を通じて感じたこと

- ・最悪の状況を想定しておかなければならない。燃料(ガソリン、灯油、軽油)水、食料を確保するための輸送方法等いくつも想定しておくことが大切である
- ・津波は「自分の身は自分で守る」が原則である。家族を助けに行った者、自宅に物を取りに行った者、学校・幼稚園へ子供を迎えに行った者など様々な理由で津波にのみ込まれていった。子供たちには防災教育で津波の恐ろしさを教え、伝え、どこにいてもその場所での最適な避難場所をあらかじめ頭に入れておく。どうすれば津波(災害)から逃れられるかなどの術をあらかじめ教えておくことが大切である。日ごろの防災教育により子供は、安全な場所へ避難していると信じて、親も避難することが大切である。迎えに行くことが避難ではない。
- ・避難所閉鎖に伴い、避難所の撤去作業を行ったところ、比較的少人数の避難所は整理され片付けるにも容易であったが、大人数の避難所では、物資等が整理し切れておらず、使える物と使えない物の仕分けをその場で行っていたため、余計に作業時間を費やしたように思えた。避難所を運営していく上で、住民が仮設住宅へ移動していく際に避難所の整理整頓、後片付けなども念頭において運営していくことで、撤収作業もスムーズに行え、学校や公民館等の避難場所管理者へ早く返すことができると感じた。

## 5 支援活動から見た被災状況など



山田町役場庁舎屋上からの撮影

津波襲来で家屋が流され、その後火災が起こり、街のほとんどが消失。家屋の基礎のみが残った状況。大きな瓦礫は撤去されているが、小さな瓦礫は現在も多く残っている。

